

## 中長期計画に対する自己評価（1ページ以内）

全体評価	S：当初の計画を超え、目標を上回る顕著な成果が得られている。 A：当初の計画を着実に実行してきており、目標に対し十分な成果が期待できる。 B：当初の計画をほぼ実行できているが、一部に遅延、未達等の取り組みがあり、目標の達成に継続した努力が求められる。 C：当初の計画について半数以上の取り組みについて未達であり、取り組みや目標に関して一定の見直しが必要である。 D：当初の計画を大幅に下回っており、目標の達成見込みがないため、計画に関する抜本的な見直しが必要である。
------	---

## 評価理由

世田谷プラットフォーム（以降、世田谷PF）においては、プラットフォームを形成する6大学が中長期計画（2024（令和6）年度～2028（令和10）年度）に基づき各種活動に取り組んでいる。

運営体制については、意思決定機関として6大学、行政機関、産業界等からなる協議会、形成大学間での協議の場として協議部会が、それぞれ定期的に年4回開催されており、各取り組みに対応する各部会、各ビジョンプロジェクト、共同事務局等が設置され、各組織の役割が整備されている。また、評価する仕組みとして評価時期を定め、進捗確認を含めた評価体制を構築し、評価結果を次年度計画へ反映する体制なども整備されている。

そして、7年連続して文部科学省私立大学等改革総合支援事業（タイプ3）に採択され、一定の継続的成果をあげてきた。

2024（令和6）年度は、目標達成ができなかった活動もあったが、対面での活動もコロナ禍以前の水準まで回復した取り組みもあり、ICTを活用した取り組みとの融合が図れ、時代に即した活動が行えた。近年ニーズが高まっているリカレント教育においては、「ビジネスキャリアデザイン講座Ⅳ」を継続して開講することができ、また e-Learning 方式を含む「公開講座提供件数」なども、数値目標を大きく上回り達成することができた。

世田谷区立教育総合センターにおけるSTEAM教育講座では、世田谷区と連携し6大学が特徴のある講座を出展した。2025（令和7）年度も継続して出展できるよう企画の検討を進めており、今後の世田谷PFの地域貢献へのさらなる活躍が期待される。

以上に記載したとおり、全体として、2024（令和6）年度は、目標未達の計画もあったが、各大学独自の取り組みと、オンラインの活用に加え対面での実施により、大学間連携など様々な取り組みを進めたため、評価はBとした。

## 評価に関する備考（考慮すべき事項）

## ■ ICT の活用

ICTを大いに活用し各活動を継続した。例えば、リカレント教育の推進を図る社会人向け「ビジネスキャリアデザイン講座」、生涯学習を提供する「せたがやeカレッジ」の公開講座は、無料のオンデマンド配信で幅広い層への参加の機会を継続して提供している。

## ■ 事務局体制の強化

年20回の各種会議を進めるあたり、効率化のためオンラインを利用するだけでなく、資料の共有と連携効率化を図るためクラウドシステム（Fleekdrive）を導入し、情報集約を行っている。

会計業務においては、出納帳による小口現金の運用も行い、円滑な管理を行っている。

## ■ 区内産業界との連携

世田谷PFは、東急株式会社、イツ・コミュニケーションズ株式会社、東急スポーツシステム株式会社、東京商工会議所および世田谷信用金庫の参画企業5社とそれぞれ包括連携の体制を構築している。

## ■ 地方自治体との連携

世田谷PFは、世田谷区だけでなく、同区と交流のある地方自治体（北海道中川町、北海道洞爺湖町、山形県舟形町、群馬県川場村、神奈川県川崎市、長野県豊丘村、新潟県十日町市等）との連携を掲げている。

達成目標・活動指標等（おおむね10頁以内）									
課題	達成目標	課題を解決する取組概要	活動指標			実績	評価・備考		
			上段数値：各大学が独自で実施している取組件数 下段数値：上記の内、世田谷PFとしての取組件数			以下、2024年度の実績及び評価			
<b>ビジョンプロジェクト1（文化・芸術・教育） 担当：【国士舘】、【東京都市】</b>									
1-1. 今後も人口増加・住民の多様化が予想される世田谷区において、幅広い年齢層や地域のニーズに合わせた教育の提供が求められているが、その機会が不足している	■ 大学の幅広い知財を地域住民に提供する機会を増やし、様々なニーズに合わせた教育を実施する	■ 高等教育の提供	■ 公開講座等提供件数（eラーニング含む）【件】					279件 (5)	B 世田谷区における様々な特色をもつ6大学で世田谷PFが形成されており、広範囲の学術分野を補った取り組みが可能であるが、数値目標を達成していない。
			2024	2025	2026	2027	2028		
			310件 (12)	315件 (12)	320件 (12)	325件 (12)	330件 (12)		
			■ eラーニング（せたがやeカレッジ含む）による公開講座提供件数						
2024	2025	2026	2027	2028	95件	S 6大学と区教育委員会が共同で運営する「せたがやeカレッジ」によるe-Learning方式の講座提供を行い、数値目標を大きく上回ることができた。			
50件	50件	50件	50件	50件					
1-2. 大学がもつ高度で専門的な教育資源を活用し、小中学校等における教育活動の充実をはかる必要があるが、その連携が不十分である	■ 大学がもつ高度で専門的な教育資源の活用による、小中学校等における教育活動の充実	■ 区内小中学校等への教育活動支援	■ 教育支援活動を実施した小中学校数					32校	B 2023年度(29件)からは増加をしたが、数値目標には到達することができなかった。
			2024	2025	2026	2027	2028		
			55校	55校	55校	55校	55校	46名	C 世田谷区教育委員会事務局を通じて派遣しているが、受入体制と派遣体制が整わず計画どおりの数値は達成できなかった。
			■ 学生ボランティアによる区内小・中学校等への教育活動支援派遣者数（世田谷区「区立幼稚園、小・中学校等への教育活動支援事業」含む）						
2024	2025	2026	2027	2028					
75名	75名	75名	75名	75名					
1-3. 乳幼児期から文化・芸術にふれることは、想像力と創造性を育み、多様な価値観を受け入れることが期待される一方で、それらは限られた環境の子どもにしか提供されていない	■ 文化・芸術・教育に関わる機会の提供及び乳幼児の情操教育への寄与	■ 乳幼児及び保護者への支援の推進	■ 乳幼児及び保護者への支援活動並びにその啓発活動の実施件数					3件 (0)	C 2023年度(5件)より減少しており、数値目標を達成していない。計画の検討、活動の見直しが必要である。
			2024	2025	2026	2027	2028		
			10件 (3)	10件 (3)	10件 (3)	10件 (3)	10件 (3)		

2024（令和6）年度 世田谷プラットフォーム評価報告書

1-4. 文化・芸術活動等は、障がい者が生きがいや社会参加に寄与するために必要であるが、その支援活動が不足している	■ 障がい者支援活動機会の充実	■ 障がい者支援の推進	■ 障がい者支援活動及びその啓発活動の実施件数					7件 (0)	C 徐々に件数が増加しており、数値目標に近づいている。より活発な活動が望まれる。
			2024	2025	2026	2027	2028		
			10件 (2)	10件 (2)	10件 (2)	10件 (2)	10件 (2)		

ビジョンプロジェクト2（地域活性） 担当：【国士館】、【駒澤】

2-1. 近隣同士の付き合いや地域での繋がりが希薄になっているため、地域振興や交流イベントの機会が求められている	■ 地域課題の解決や地域振興に向けた支援体制を構築し、「安心安全に暮らし、学び、遊べる街世田谷」の実現	■ 地域振興・交流イベントの推進	■ イベントの開催・協力件数					82件 (9)	B 2023年度(108件)より減少しており、数値目標を達成していない。計画の検討、活動の見直しが必要である。
			2024	2025	2026	2027	2028		
			120件 (20)	120件 (20)	125件 (22)	125件 (22)	125件 (22)		
2-2. 防災教育や指導等が区内に滞在する人々に対して十分な準備が整えられていない	■ 同上	■ 防災教育の推進	■ 防災教育の参加者数					23,444名	A 各大学において、防災意識が高まり防災訓練等の取り組みが推進されているが、数値目標には達成していない。
			2024	2025	2026	2027	2028		
			28000名	28000名	28100名	28500名	28550名		

ビジョンプロジェクト3（産業） 担当：【成城】、【東京農業】

3-1. 世田谷区内の産業界に従事する若年層が多くないため、高齢化社会に向けての人材確保ができていない	■ 産学官の連携体制を構築し、区内における就労及び新たな商品開発や起業の促進をはかることにより、区内産業を活性化	■ 企業との連携推進	■ 区内産業界へのインターンシップ参加者数					52名	A 数値目標にはわずかだが及ばなかった。区内産業界との連携をより推進する取り組みが望まれる。
			2024	2025	2026	2027	2028		
			60名	70名	80名	90名	100名		
			■ 区内への就業者数					169名	A 部会を中心に活動を進めており、数値目標を上回ることができた。
			2024	2025	2026	2027	2028		
150名	160名	170名	180名	190名					
3-2. 区内産業を活性化するための教育プログラム（リカレント教育）が提供されていない	■ 同上	■ 企業との連携推進	■ 社会人向け教育プログラム数					26件 (10)	A 世田谷PF独自の社会人向け教育プログラム「ビジネスキャリアデザイン講座IV」を継続して開講できた。
			2024	2025	2026	2027	2028		
			25件	29件	33件	37件	41件		

2024（令和6）年度 世田谷プラットフォーム評価報告書

3-3. 区内産業界を活性化するための、区内産業界等との連携体制が十分でない	■ 同上	■ 企業との連携推進	■ 産業イベント開催・協力件数					15 件	S 各大学の地道な取り組みが継続され、数値目標を上回る成果が得られた。
			2024	2025	2026	2027	2028		
			9 件	10 件	11 件	12 件	13 件		
3-4. 世田谷区は、兼業・副業や職住近接の働き方改革モデル地域として、また、多様な地域的課題を解決するコミュニティ・ビジネスの叢生モデル地域として期待されているが、地域住民や地元学生などに起業に関心のない「創業無関心者」が依然として多いため、地域ぐるみで創業機運を醸成する必要がある	■ 同上	■ 地域の「創業無関心者」層に、起業に関心を持ってもらうための啓発普及活動を展開	■ 創業機運醸成のためのイベント等開催数					1 件	A 数値目標は達成できた。さらなる啓発活動に取り組むことが望まれる。
			2024	2025	2026	2027	2028		
			1 件	2 件	2 件	2 件	2 件		

ビジョンプロジェクト 4（国際化） 担当：【成城】、【東京都市】

4-1. 東京オリンピック・パラリンピックに向けてアメリカのホストタウンとして区内での国際化対応を推進する必要がある	■ 東京オリンピック・パラリンピックとその後に向けた区内での国際化対応による世田谷の魅力度の向上	■ 国際感覚の醸成	■ 国際化推進イベント参画・協力件数					13 (2)	S 各大学のグローバル教育推進の影響もあり、数値目標を大きく上回ることができた。
			2024	2025	2026	2027	2028		
			2 件 (1)	2 件 (1)	2 件 (1)	2 件 (1)	2 件 (1)		

ビジョンプロジェクト 5（大学等の連携） 担当：【駒澤】、【昭和女子】

5-1. 個別の大学の取組のみでなく、各大学のFD・SD活動を共有あるいは共同開催することで、効率的な教育改革あるいは大学改革を推進する必要がある	■ 教育力の向上並びにスタッフ能力の開発により、世田谷区内大学の価値を高める	■ PF 形成校（大学・高専）の連携強化	■ 共同FD・SD開催件数					4 件	B 部会を中心に取組んではいるが、数値目標には及ばなかった。
			2024	2025	2026	2027	2028		
			6 件	6 件	6 件	8 件	8 件		
5-2. 自大学に無い科目の提供や環境の異なる大学で学ぶことにより、学生の学修意欲を高める必要がある	■ 世田谷PF内で単位互換を活用しやすい仕組みを構築するとともに単位互換科目数を増加する		■ 共同の単位互換科目数					307 科目	A 数値目標は達成しているが、2023年度(368件)よりも減少しているため、新たな単位互換科目を検討することが望まれる。
			2024	2025	2026	2027	2028		
			300 科目	300 科目	310 科目	310 科目	320 科目		

2024（令和6）年度 世田谷プラットフォーム評価報告書

<p>5-3. 各大学が保有する施設・設備の共同利用を推進することにより、世田谷PFの活性化並びに大学間の教育研究等の連携強化を図る必要がある</p>	<p>■ 各大学が保有する施設・設備の共同利用を推進する</p>		<p>■ 共同利用が可能な施設・設備登録数</p>					<p>750件</p>	<p>A 数値目標は達成しているが、2023年度(753件)よりも若干減少しているため、新たな施設・設備の利用を検討することが望まれる。</p>
			<p>2024</p>	<p>2025</p>	<p>2026</p>	<p>2027</p>	<p>2028</p>		
			<p>750件</p>	<p>750件</p>	<p>760件</p>	<p>760件</p>	<p>760件</p>		
<p>5-4. 世田谷区内にある13大学の内、現在参画しているのは6大学であり、区内外の参加校数を増やし、より世田谷PFを充実する必要がある</p>	<p>■ 区内外への参加を呼びかけ、参加校を増やし、世田谷PFの効果を高める</p>		<p>■ 参加校（大学・高専）数</p>					<p>6校</p>	<p>A 数値目標は達成しているが、構成大学は6大学に留まっている。引き続き、参加校を増やす取り組みが望まれる。</p>
			<p>2024</p>	<p>2025</p>	<p>2026</p>	<p>2027</p>	<p>2028</p>		
			<p>6校</p>	<p>6校</p>	<p>6校</p>	<p>7校</p>	<p>7校</p>		
<p>5-5. 世田谷PF形成大学等において、共同のニーズ調査や高校訪問、説明会、広報（Webサイトやパンフレット等）活動を行い、世田谷区で学ぶことの魅力を高めていく必要がある</p>	<p>■ 世田谷PF形成大学の知名度を高め、世田谷で学ぶ魅力を伝えるために、共同学生募集活動を推進する</p>		<p>■ 共同学生募集活動件数</p>					<p>6件</p>	<p>B 部会を中心に活動は行われたが、数値目標には及ばなかった。</p>
			<p>2024</p>	<p>2025</p>	<p>2026</p>	<p>2027</p>	<p>2028</p>		
			<p>8件</p>	<p>8件</p>	<p>8件</p>	<p>10件</p>	<p>10件</p>		
<p>5-6. 世田谷PF形成大学等において、地域課題の解決等に向けた共同のボランティア体制が整備されていない</p>	<p>■ ボランティア体制の充実</p>		<p>■ 学生ボランティア派遣件数（世田谷区「ボランティア事業」との連携）</p>					<p>87件</p>	<p>B 2023年度(93件)よりも件数が若干減少しているため、ボランティア体制の整備が望まれる。</p>
			<p>2024</p>	<p>2025</p>	<p>2026</p>	<p>2027</p>	<p>2028</p>		
			<p>検討</p>	<p>試行</p>	<p>実施</p>				